

## J F A アカデミー福島 基本方針

- 1 . フィロソフィー
- 2 . 生活・ルールに関する考え方
- 3 . J F A プログラム (教育プログラム) の主旨

### 〔添付資料〕

J F A アカデミー福島 アカデミー生 心得

J F A アカデミー福島 寮規則

2006 年 4 月

財団法人日本サッカー協会  
J F A アカデミー福島

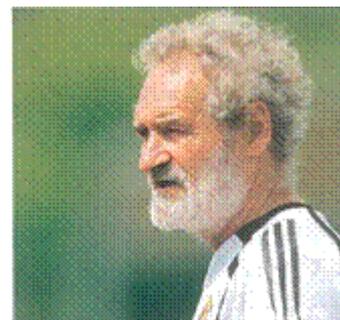
## 1. フィロソフィー

常に（どんなときでも、日本でも海外でも）ポジティブな態度で何事にも臨み、  
自信に満ち溢れた立ち振る舞いのできる人間を育成することを目的とします。

JFA アカデミー福島 スクールマスター 田嶋 幸三

以下、JFAアカデミー福島アドバイザーであるクロード・デュソー氏（フランスサッカー学院元校長）の言葉を掲載します。

（JFA エリートプログラム U-13/14 における選手に対するレクチャーより）



はじめに

- ・ サッカーにはいろいろな考え方があるが、今日は、私の考え方を話す。
- ・ 外国語が解らなくても、外国語を聞いて想像力を働かせることも大切である。
- ・ 人生は、サッカーだけではない。したがって、学校の勉強や社会生活(活動)、さまざまな文化・芸術に触れることも大切である。
- ・ 自分の意見をしっかりと人に伝えることができることも大切である。
- ・ そして、いつも笑顔でいることが大切。

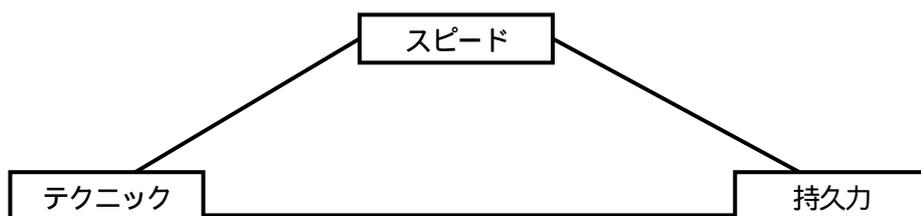
君たちに望むもの

- ・ プレーすることの喜びを常に持ち続ける。君たちの喜びが私たちの喜びである。そして、プレーを楽しむためには、テクニックが必要になってくる。
- ・ 君たちが 19 歳になった時のことを考えると、今、エリートに入っていない選手の中でも、もっとうまくなっている選手はいる。また、コーチも全国の良い選手を探している。君たち自身が、このエリート(代表)に入り続けることが大切である。そして、いつも前向き(ダイナミック)に元気を出して、笑顔を忘れないことが大切である。
- ・ 人生では、幸せな時もあるが、辛いこともある。サッカーも楽しい練習ばかりではない。フィジカル的な練習で、辛いこともある。試合も勝つこともあれば負けることがある。しっかり、それを受け止めることが大切である。
- ・ 素質のある選手の責任は個人にある。したがって、自チームに対してもいいものは伝える必要がある。
- ・ 次のエリートのキャンプには、ここにいる全員に来てほしい。しかし、鼻高々になる必要はない。シンプル(自然体)に行動することが大切である。

10 年後に世界のトップ 10

- ・ 10 年後は、君たちは 22 歳～23 歳になっている。
- ・ 10 年後のサッカーを想像すると、技術はもっと進化している。スピードももっと上がってくる。従って、すべての技術を身に付けておくことは、最低条件である。10 年後は、戦術も変わるし、試合の中のシステムも変わる。いつも、良いイメージ(写真家がいつも自分のプレーを写している)を持ってプレーすることが大切。
- ・ フィジカル要素から考えても、長い距離を走り続けることが必要となり、スピードやコンタクト、コーディネーションなど、すべての要素の向上が必要になってくる。
- ・ 精神的な向上も望まれる。いつも平常心で、自分の精神コントロールできることが大切になる。
- ・ したがって、10 年後は、現在のサッカーより、すべての要素の向上が必要である。

サッカーに必要な要素



- ・ テクニックは 15 才までに獲得したい。その後の獲得には期待できない。そして、動きながらのテクニックの獲得が必要である
- ・ 持久力は 12 才～15 才までに獲得したい。その後の獲得には期待できない。
- ・ スピードと持久力の関係では、スピードのある選手は、持久力がない。持久力がある選手はスピードがないのが一般的だが、良い選手はすべての要素を持っている。
- ・ なぜ、試合の終了間際に得点がうまれるのか？考えてみよう。

～最後にもう一度「いつも笑顔を忘れない」～

## 2 . 生活・ルールに関する考え方

基本方針

私たちは、サッカーを越えた社会の指導者となるためのフェアネス精神とディシプリンに裏づけされた自己抑制力とリーダーシップをそなえた個を養成したいと考えています。リーダーとしての心構えと使命感、指導者としての倫理観を養っていきます。

社会的リーダーたる生活行動・姿勢

- ・ マナー、フィロソフィー
- ・ フェアネス、ディシプリン（規律）に裏付けられた強い個の確立
- ・ 道徳的、人格的に信頼できる人であること（インテグリティ）
- ・ 社会に対する知識、自らの役割の理解。社会に対して無関心でいてはいけない）

自立、自律

質素に最低限必需品にて過剰にならずに生活

エリートの意味は、12 歳なりに理解して入ってきてほしいと考えます。

JFAアカデミーではサッカーはもちろんですが、サッカーだけをしていればいいのではないということ、本人自身が理解し納得した上で入ってきてほしいのです。

以上の基本方針から JFA アカデミーにおける生活についてのルールを定めています。以下のルールは、ルールのためのルールではなく、また、単に規律を厳しくするために定めるのではなく、JFA アカデミーのフィロソフィーを実現するための一環として定めるものです。

#### 寮生活

- ・ 基本的に全員が寮生活をし、他人との共同生活の中で、我慢をすることと自分の希望を相手に伝え相手にそれを認めさせるためにどのようにコミュニケーションをするかというすべ、違う考えをどのように受け入れるか、および互譲精神、フェアネスを学ぶことを目的とする。
- ・ 寮にはスタッフが住み込みで常駐する。寮生活全般に対応する。
- ・ 部屋は相部屋とする。部屋割り・入れ替えに関しては、アカデミー側で行う。
- ・ 共同生活の中、部屋は整理整頓を心がける。アカデミースタッフは、寮室にはいつでも立ち入りができ、場合によっては持ちもの検査もできる。
- ・ 定時（消灯時等）にアカデミースタッフが点呼、見回りを行い、自室にいることを確認する。
- ・ 学校の長期休み等には長期に帰省が可能な日程を設ける。
- ・ 状況に応じて個別に帰宅を許可する場合がある。

#### 保護者への連絡について

- ・ アカデミースタッフが定期的に様子を伝える（ホームページ、メールマガジン、その他通信）
- ・ 必要事項については、随時アカデミースタッフより連絡する。
- ・ 保護者側より必要が生じた場合には、随時連絡が可能である。
- ・ また、JFA スタッフが国内各地に訪れる機会には、近くの家族と面談を行えるようにする。
- ・ 寮に招待し、生活や成果を見てもらう機会を設ける。
- ・ ヘッドコーチ（男子：島田信幸、女子：今泉守正）が福島での身元保証人となり、学校等との対応を基本的に代行する。必要がある場合には、保護者へ連絡し、直接対応してもらう。

#### 小遣いに関して

- ・ 寮生活では、お金を使い放題にせず、若いうちからの unnecessary 贅沢を避け、適切な金銭感覚を持たせるための金銭教育を行う。
- ・ アカデミー生同士での金銭の貸し借りを禁止する。

#### 持ち込み禁止品

- ・ TV ゲーム、コンピュータゲーム類の持込を禁止する。
- ・ 冷蔵庫、テレビ、ヒーター、電気毛布などは共用のものであり不要であるため、持ち込み不可とする。

#### 携帯電話

- ・ 携帯電話の所持については、親元を離れる生活であることを考慮し、禁止にはせず所持の判断は保護者に委ねる。
- ・ ただし、使用方法については、アカデミーの規則、学校の校則に準じる。
- ・ 携帯電話を所持しなくても、寮への電話による伝言や取次ぎは行うので、本人への連絡は可能である。

#### 洗濯

- ・ サッカー関連のもの、私服とも、決められたルールの中で、アカデミー側にて洗濯を行う。
- ・ 各自が自分でも洗濯できる環境を整える。
- ・ 衣類については、サッカー関連のものは、アカデミーの共同管理とする。私服は自己管理とする。

#### 外出に関する取り決め（外出届）

- ・ 食事、点呼、教育プログラムの際には必ず寮にいるものとする。
- ・ 外出時には、寮で定めるとおり、寮に表示して行く。
- ・ 外泊、食事不要等の状況が生じた場合（保護者によるもの、その他特別な事由によるもの）は、担任コーチに届け出、許可を得る。

#### ドレスコード（服装規定）

- ・ 場に応じたドレスコードを守る。
- ・ 学校に関しては、中学校、高校の規定に従う。

#### 食事

- ・ 好き嫌いをせず、何でも食べられるよう指導する。
- ・ アレルギー等の問題に関しては、事前に把握し、対応する。

#### 地域活動・奉仕活動

- ・ JFA アカデミーのプログラムの中で、積極的に取り組む。

#### サポートファミリー

- ・ 地元の協力を得て、サポートファミリーとして、週末等に受け入れてもらう。福島での第二の家族をもって過ごせるようにする。

#### 生活面のケア

- ・ JFA アカデミースタッフ全体が総力を挙げて子ども達一人ひとりと対話し、ケアするが、それにプラスして、JFA アカデミー内にアスレティックカウンセラーを配置し、ライフマネジメントの部分ケアする。また、JFA スポーツ医学委員会と連携して子ども達のメンタル面のケアにあたる。
- ・ また学校にはスクールカウンセラーが置かれる。
- ・ 必要が生じた場合は、適切な専門家と連携し、ケアに当たる。

#### 進路の見直しに関して

- ・ 原則として、6年間の中高一貫による長期的な教育を基本とする。
- ・ ただし、さまざまな理由により適応が非常に困難な場合、あるいは怪我、病気等の理由によりハイレベルのトレーニングの継続が困難になる場合も想定される。その場合も、サッカー以外にも価値の高い教育プログラムを提供する一方で、個々のケースに応じて、選手本人にとって最も良い方法を、本人、家族、学校、指導者との協議により検討し、判断する。

#### 医療体制

- ・ JFA の医療スタッフが地元の医療体制と連携をとり、24時間対応可能な体制をとる。
- ・ 持病等健康上の問題については、あらかじめ調査し、それに基づき対応する。

#### 入学

- ・ JFA アカデミーへの入学は、JFA アカデミーと保護者・本人との契約ととらえる。
- ・ 主旨を理解、納得した上で、契約書に保護者と本人と JFA アカデミー代表者がサインしての入学となる。

### 3. JFAプログラム(教育プログラム)の主旨

JFAアカデミーでは、真の意味でのエリートとなる人材、サッカーを越えた社会で将来的にリーダーとなりうる人材を育成するために、学校の授業とは別に、教育プログラム「JFAプログラム」を用意しています。

それらは、学ぶ意義があるからこそ学ぶものであり、勉強のための勉強ではありません。アカデミーに入る選手たちには、それぞれのことを学ぶ意義、必要性を理解したうえで、それを基盤に積極的に取り組んでほしいと考えています。それがこのエリート教育のスタートポイントであると考えています。

私たちは、必ずしも「サッカーで成功しなかった時のため」、あるいは「セカンドキャリアのために」プログラムを組んでいるわけではありません。世界で通用するサッカー選手となるために、社会のリーダーとなるために必要なことだと考えています。

#### 1. 社会性、倫理観、道徳観

社会に対する関心、関わる意志  
社会奉仕  
リーダー教育

#### 2. 考えを持ち、伝える(ロジカルコミュニケーションスキル)

考える材料、軸を持つ  
論理的に考える                      論理的思考  
人に有効に伝える                      プレゼンテーション

#### 3. 世界で通用する日本人として

日本に対する知識、理解  
語学力  
世界に対する知識、理解(社会問題、宗教、歴史等)  
教養(文化・芸術)

#### 4. エリートスポーツ選手として

サッカーに対する知識、理解  
アスリートとしての自己管理

#### 十分な学力

サッカーのみですませず、十分な学力をつける  
学力ではなく、目的によって将来を幅広く選択しマネジメントできるように